

小牧連携だより



◆特集◆

生殖医療センターの取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2

◆認定看護師紹介◆

集中ケア認定看護師・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 6

◆ドラッグインフォメーション◆

取り違え注意のお願い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 7

【患者支援センター 業務内容】

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. 地域の医療機関との連携に関すること | 4. がん相談支援に関すること |
| 2. 入退院支援に関すること | 5. 医療福祉相談に関すること |
| 3. 医療サービスの向上に関すること | 6. その他（地域連携関連業務全般） |

【受付時間】

平日 午前8時30分～午後7時
土曜 午前9時～午後0時

電話 0568-76-1434
FAX 0568-74-4516

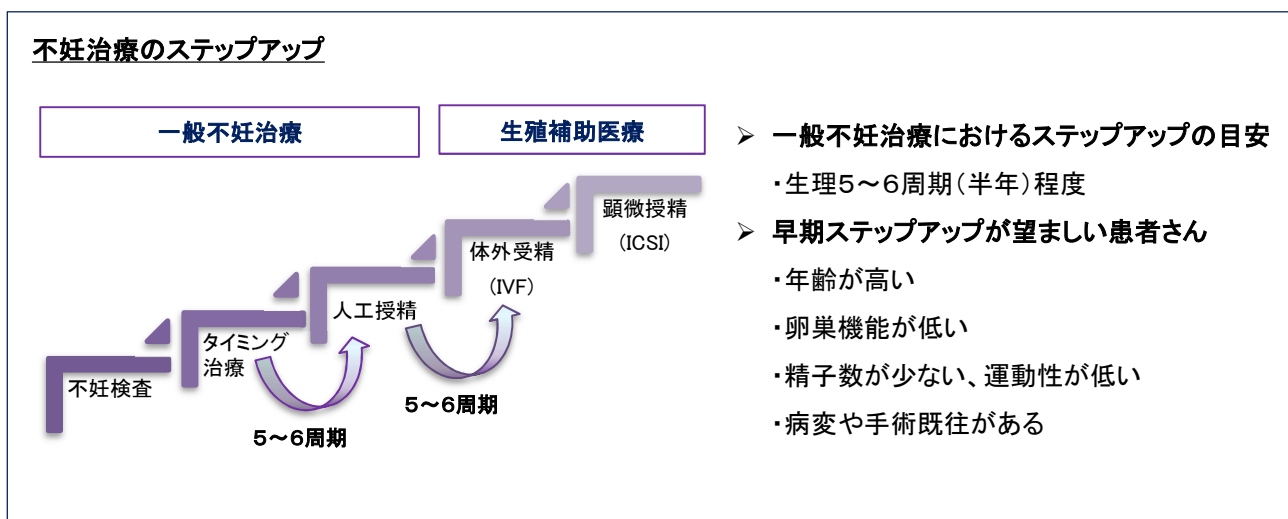


Komaki

生殖医療センターでは、タイミング治療や人工授精などの一般不妊治療から、体外受精や顕微授精などの生殖補助医療にまで対応しています。複数の女性医師を中心に夫婦の状態や要望に合わせた最適な治療を提案しています。

■ 不妊症とは

不妊症とは、「生殖年齢の男女が妊娠を希望して1年間避妊せず性交を行っても妊娠しない場合」と定義されています。女性の社会進出等により晩婚化・晩産化が進み、日本国内で不妊症に悩む患者さんの数は5.5組に1組となっています。我が国の生殖補助医療（ART：assisted reproductive technologies）による治療総数は45万件以上と世界で最も件数が多く、2018年に体外受精で生まれた子どもは過去最多の約5万7千人と総出生児の約16人に1人となっています。



■ 検査・治療方法

➤ 一般検査

卵巣予備能検査 (AMH)、ホルモン検査、クラミジア検査、子宮卵管造影検査、精液検査

➤ 一般不妊治療

タイミング療法、人工授精

➤ 生殖補助医療

体外受精・胚移植 (IVF-ET)、顕微授精 (ICSI)、レスキュー顕微授精、胚盤胞培養、精子・受精卵(胚)凍結、アシステッドハッチング、融解胚移植、医学的適応卵子凍結、男性不妊症（提携先の泌尿器科と連携）、ERPeakSM子宮内膜胚受容期検査(子宮内膜の状態が胚移植に適した時期かを調べる遺伝子検査)

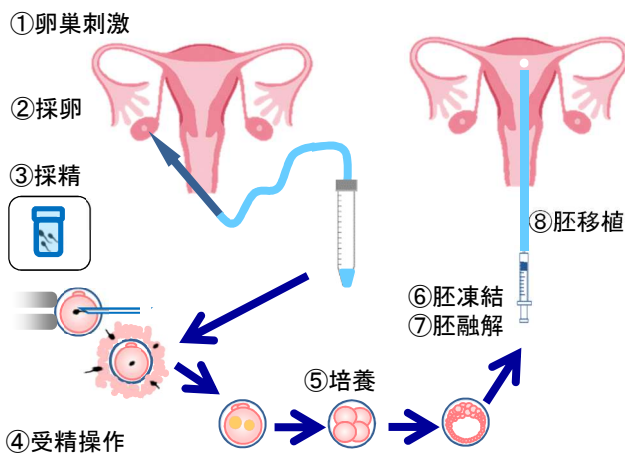
➤ 体外受精コーディネータによる個別相談（不妊治療に関する不安や悩みなどを相談）

■生殖補助医療

当院で生殖補助医療を行なう場合、薬を用いた卵巣刺激によって卵子を育て採卵します。その卵子に受精操作を行い、受精卵を培養後、凍結、融解（解凍）、胚移植を行ないます。（受精卵を培養後、凍結・融解して移植する方法を融解胚移植といいます）

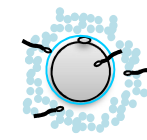
受精操作方法は、容器内で卵子に精子をふりかける「体外受精法」と成熟卵に針で精子1個を注入する「顕微授精法」の2種類があります。

採卵から胚移植までの流れ



受精操作の方法

➤ 体外受精法 (IVF: 媒精)



長所

・受精過程が自然妊娠に近い

短所

・受精成績が安定しない

➤ 顕微授精法 (ICSI)



長所

・精子を確実に卵子に入れる

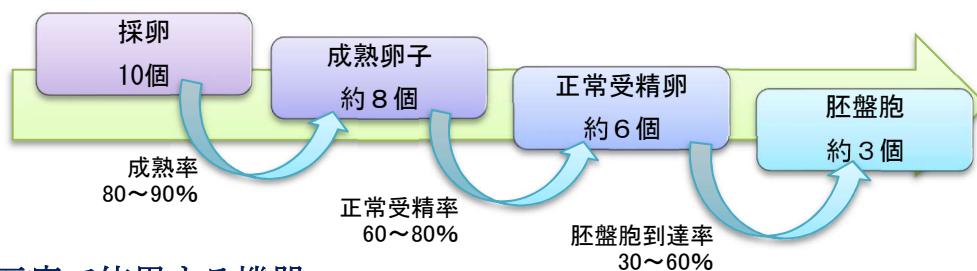
・媒精で受精しない症例に有効

短所

・卵が壊れる可能性がある

採卵後の卵子の成長例

採卵後の卵子の成長はこれまでの報告をもとに考えると、「10個採卵できた場合、胚盤胞まで育つには約3個程度」になります。



■生殖補助医療で使用する機器

当院では、顕微授精時に使用する顕微鏡、受精卵をリアルタイムで観察できる培養器、配偶子（精子・卵子）・受精卵を厳重に保管するための鍵付きの液体窒素タンクを使用しています。



顕微鏡



培養器



液体窒素タンク

■ 「がん」と「生殖医療」

がん治療の進歩により、治療後の患者さんの生存率が向上しています。そのなかAYA世代 (adolescent and young adult) と呼ばれる15歳から39歳までのがん患者さんにおいて、治療後の生活の質 (Quality of Life : QOL) の向上の一つとして「妊孕性温存」と「がん生殖医療」が注目されています。「妊孕性 (にんようせい)」とは、男女問わず将来妊娠するための能力のことを言います。

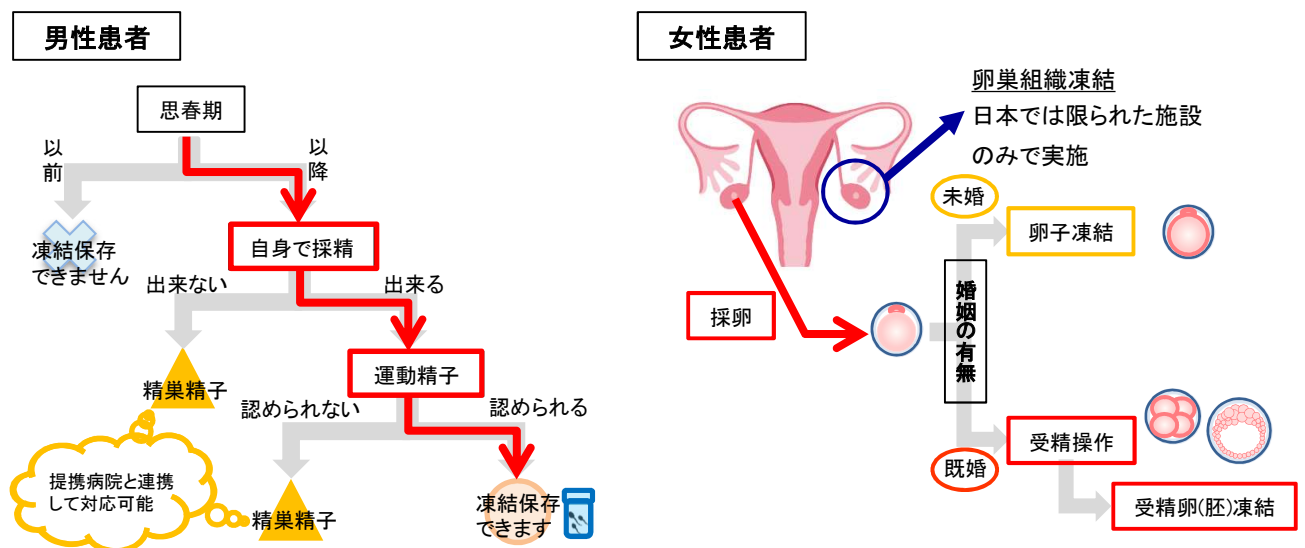
当院の生殖医療センターでも、がん患者に対する「妊孕性温存」と「がん生殖医療」に積極的に取り組んでいます。

■ がん治療前の妊孕性温存

がん治療に使用する一部の抗がん剤や放射線治療は、精巣や卵巣機能にダメージを与え「妊孕性」に影響を及ぼすことが知られています。当院では、がん治療前の患者さんを対象に、配偶子 (精子・卵子) や受精卵の凍結を行う「妊孕性温存」を行っています。

自身で採精可能な男性の場合、精液中に運動精子が認められれば即日凍結を行うことが可能です。女性の場合、既婚者は受精卵での保存、未婚者は卵子での凍結が可能です。採卵可能な状態になるまでに数日から数週間の時間が必要となる場合があります。

妊孕性温存の可否



■ がん治療後の生殖医療

がん患者の原疾患の治療終了後に主治医の承認を得て治療を開始します。

凍結保存している受精卵は融解 (解凍) して子宮に移植します。

凍結保存している卵子は融解後に受精操作を行い、受精卵を培養して子宮に移植します。

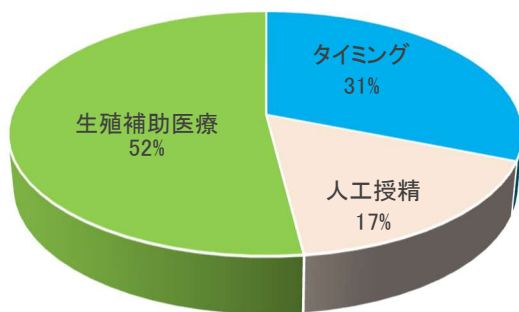
凍結保存している精子は融解後に受精操作を行い、受精卵を培養して子宮に移植します。

■治療実績

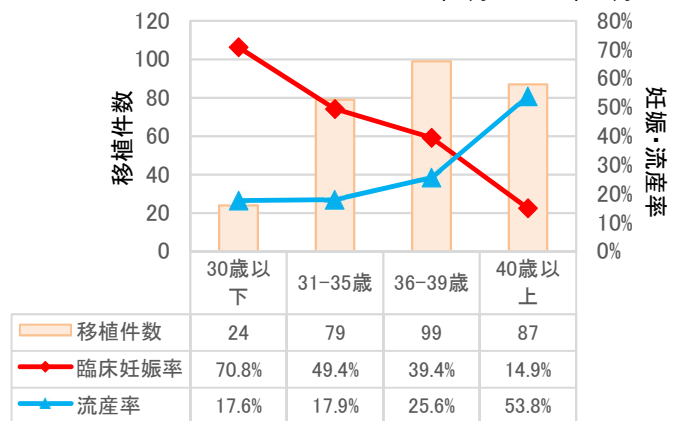
生殖医療センターが関わる妊娠症例では、生殖補助医療で妊娠される患者さんが半数以上です。胚移植は、女性の年齢の上昇にともない妊娠率が低下し、流産率が高くなります。

妊娠には、女性の年齢が大きく関わりますので、年齢によっては早期の治療が必要になります。

妊娠症例の内訳
2012年1月～2020年12月



胚移植における成績
2018年6月～2020年11月



■不妊治療に関する費用

一般不妊治療

- 人工授精：15,000円（税別）

生殖補助医療

採卵から胚移植までに掛かる費用は1回あたり約36～75万円です。各個別の費用については次のとおりです。

- 採卵にかかる費用
 - ・ 卵巣刺激代（内服薬や注射代）：約3～20万円
 - ・ 採卵代金（採卵・受精操作・胚培養・凍結代など）：約20～45万円
- 胚移植にかかる費用
 - ・ 胚移植の薬代：約3～4万円
 - ・ 胚移植代金：約10万円

■患者さんのご紹介

生殖医療センターでは、タイミング治療や人工授精などの一般不妊治療から、体外受精や顕微授精などの高度生殖医療にまで対応しており、ご夫婦の状態やご要望に合わせたテーラーメイドな治療を提案しています。対象の患者さんがおみえになりましたら、生殖医療センターをご紹介ください。

【生殖医療に関する問合せ先】

生殖医療センター

佐野 美保（生殖医療センター長・産婦人科部長医師）

糸井 史陽（胚培養士）

電話 0568-76-4131（代表）

■ 集中ケア認定看護師

看護局

集中ケアを必要とする患者さんは、積極的な医療的介入なしには生命が維持できない方が多く、疾患や侵襲的治療のために身体的・精神的な苦痛が生じています。

さらにプライバシーや選択の自由、情報共有など社会的な権利も制限されており、患者さんを支える家族も精神的な危機的状況にあります。

集中ケア認定看護師は、生命の危機的状況にある患者さんの病態変化を予測し、重篤化を回避するための援助と生活者としての視点からのアセスメント及び早期回復支援リハビリテーションの立案・実施が求められます。

そのなかで私は、集中ケア認定看護師として以下の3つが重要と考えています。

1. 多職種との協働

患者さんの病態を改善させる医学的管理、早期回復支援のためのリハビリテーション、状況に合わせた栄養管理、安全な薬剤管理、そして早期からの退院支援など多職種での協働がなくては集中ケアを実施する事は出来ないと考えます。そのため、多職種との連携を図る調整者としての役割も求められます。

2. スタッフ指導・教育

患者さんの病態変化を予測するためのフィジカルアセスメントは重要で、他分野の認定看護師とともにフィジカルアセスメント研修を行っています。また、適切な看護を提供するために、ケア前後でのアセスメントや評価をスタッフ同士での振り返り、経験から学ぶ学習プロセスを大切にしています。

3. 倫理カンファレンスの開催

集中ケアの対象は、緊急発症の超急性期の患者さん、慢性期に移行しながらも集中治療が必要な患者さん、治療を行う中で終末期を迎える患者さんと多様です。倫理的ジレンマに悩む事例も多く、定期的に倫理カンファレンスを開催し、何が患者さんやそのご家族にとって最善であるかを検討し共有しています。

最近は一般的な重症患者さんだけでなく、新型コロナウイルス感染症で重症化される患者さんもみられ、倫理的ジレンマに悩む事例が多くなっています。生命の危機的状況にある患者さんやそのご家族の対応で困ったことやわからないことなどあれば、患者支援センターまでご相談ください。

当院の認定看護師

当院では、特定の分野において十分な経験を積み、日本看護協会が定める専門的な教育を受けた11領域20名（2021年1月時点）の認定看護師が活動しております。その内訳は次のとおりです。

がん化学療法看護	2名	皮膚・排泄ケア	3名	がん性疼痛看護	2名
感染管理	2名	救急看護	1名	緩和ケア	2名
摂食・嚥下障害看護	1名	手術看護	2名	脳卒中リハビリテーション看護	1名
集中ケア	1名	認知症看護	2名		



札幌 純次 看護師

■ 取り違え注意のお願い

DI室

各製薬会社から“取り違え注意のお願い”が発出されております。販売名や効能、用法、薬歴等が類似している医薬品を処方される際にはご注意ください。

■ サイレース®とセレネース®

販売名	サイレース®静注 2 mg	セレネース®注 5 mg
一般名	フルニトラゼパム	ハロペリドール
薬効分類名	麻酔導入剤	抗精神病剤
販売名	サイレース®錠 1 mg ・ 2 mg	セレネース®錠 0.75mg ・ 1 mg ・ 1.5mg ・ 3 mg セレネース®細粒 1 % セレネース®内服液 0.2 %
一般名	フルニトラゼパム	ハロペリドール
薬効分類名	不眠症治療薬	抗精神病剤
製造販売等	エーザイ(株)	大日本住友製薬(株)

■ デュファストンとディナゲスト

販売名	デュファストン錠 5 mg	ディナゲスト錠 1 mg ディナゲストOD錠 1 mg ディナゲスト錠 0.5mg
一般名	ジドロゲステロン	ジェノゲスト
薬効分類名	レトロ・プロゲステロン製剤	ディナゲスト錠 1 mg ・ OD錠 1 mg 子宮内膜症治療剤・子宮腺筋症に伴う疼痛改善治療剤 ディナゲスト錠 0.5mg 月経困難症治療剤
製造販売元	マイランEPD(合)	持田製薬(株)

■ 問合せ一覧

内 容	連絡先等
紹介予約	医療機関から予約を取得いただくほか、患者さん自身ご予約いただくことも可能です。円滑に診療させていただくためにも、事前予約にご協力ください。
	受付時間：平日 午前8時30分～午後7時、土曜日 午前9時～午後0時 電話：0568-76-1434 FAX：0568-74-4516
緊急紹介 (予約センター・救急外来)	当日の救急当番医にお繋ぎします。 (緊急紹介依頼時には「緊急紹介専用ダイヤル」にて事前にご連絡ください)
	受付時間：24時間 365日 緊急紹介専用ダイヤル：0568-76-4148 FAX：0568-74-4516 (平日 午前8時30分～午後5時、土曜日 午前9時～午後0時) FAX：0568-76-5000 (上記以外の時間帯)
小牧市民病院地域医療 ネットワークシステム (地域連携・医療相談室)	貴院のインターネット端末から、当院の医師記録、検査結果、放射線画像および読影レポートなどを閲覧いただけます。お気軽にお問い合わせください。
	受付時間：平日 午前8時30分～午後5時15分 電話：0568-76-1434
開放型共同指導	入院した紹介患者さんの共同診療を希望される場合は、事前にご連絡ください。患者支援センター職員が病棟までご案内させていただきます。
	受付時間：平日 午前8時30分～午後7時、土曜日 午前9時～午後0時 電話：0568-76-1434
セカンドオピニオン外来 受診予約	完全予約制となりますので、事前にご連絡ください。基本料金は30分あたり10,000円(税別)、以降30分ごとに5,000円(税別)となります。
	受付時間：平日 午前8時30分～午後4時30分 電話：0568-76-1434 FAX：0568-74-4516
緩和ケア病棟入棟面談 外来予約	緩和ケア病棟に入棟を希望される患者さんは、事前に入棟面談外来を受診していただく必要があります。所定の様式にてお申し込みください。
	外来開設日：毎週火・水曜日 午後3時 受付時間：平日 午前8時30分～午後7時、土曜日 午前9時～午後0時 電話：0568-76-1434 FAX：0568-74-4516
認定看護師活動 ・ 出前講座 ・ 同行訪問看護	看護師にお繋ぎし、必要事項・申請方法のご案内をさせていただきます。申込書類等をご送信いただきますと、看護師より連絡を差し上げます。
	受付時間：平日 午前8時30分～午後5時 電話：0568-76-1434 FAX：0568-74-4516